

559 中央大学大運動会

〔『法学新報』第29巻7(332)号 大正8年7月1日〕

○中央大学大運動会 中央大学学友会にては去る五月十八日府下中野なる同校運動場に於て春季陸上大運動会を開催したるか当日は夜来の風雲新に晴れ上りて雨余の乾坤一塵を留めず加ふるに日曜日的事とて朝尚ほ早き頃より西より東より吾五千の健児並に学校職員諸氏は雲霞の如く集り来り総務部、庶務會計係、審判係、合図係、呼出係、賞品係、接待係、各学校選手係、新聞係、揭示係、会場整理係、準備係、衛生係等の各役員百余名右往左往して諸般の準備に忙はしく其十時頃とも覚しき折柄打上くる花火の音は忽ちにして中野原頭の静肅を破る是に於てか歓声四方に起り潑漑たる意氣場を圧す聽て合図の銃声と共に「レース」は開始せられ法科、商科、経済科の対科「レース」、辞達学会、法学会、経済学会、実業講話会、英語会、庭球部、競争部、剣道部、柔道部等の対部「レース」を始め千二百米競争以下七十有余の各種競技は回を逐ふて眼前に展開せられ来観者は漸く潮の如く雪崩れ込み正午前既にさしにも広き大「グラ

ウンド」の観覧席も殆ど立錐の余地なく其数実に二千と註せられ競争者の元氣益々揚り各科各部の応援又実に熱烈悲壯を極め天地も為めに揺かん許りにて感興転々尽くるなく尚ほ競技の間に於ける啣唳たる奏楽と人種平等、「デモクラシー」其他数番の仮装行列とは更に数層の興味を加へ拍手喝采鳴りを止めず午後二時頃岡野学長の「グラウンド」を一週するや経済科、法科、商科の各団体は執れも学長を胴上げして其万歳を唱へ斯くて競技は順次進行し午後五時に至り空前の盛況を以て全く其局を結ひたるか当日の呼物たる対科「レース」に於ては月桂冠は遂に法科の掌裡に帰したりと云ふ